

令和6年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 作成日：R7.1.28

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所の特徴	「要介護状態になっても地域とのつながりを絶やさない」「地域の中の施設」をコンセプトにしています。介護が必要になった人が家族や地域とのつながりを保ちながら、生活を送れるように「通い」「訪問」「泊まり」の3つのサービス形態を本人、家族の希望に合わせて柔軟に組み合わせ利用できます。「通い」「訪問」「泊まり」どのサービスを利用してもいつも顔なじみのスタッフがケアを行います。少人数登録制のため家庭的な雰囲気での利用者・スタッフと楽しく過ごすことができ認知症の方も不安なく過ごすことができます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 摂田屋	管理者	川上喜代子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	2人	1人	1人	1人	1人	3人	0人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> サービス評価に関する勉強会を評価前に実施し、理解を深める。 改善計画に対し各項目の役割分担を行い、「出来ていない点」「あまり出来ていない点」に重点を置き、改善計画を実施していく。 ミーティング時に改善計画の進捗状況を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> サービス評価に関する勉強会を評価前に行なう事で、自己評価に対する理解を深めることができた。以降のケアに対し、改善計画を意識したサービスの提供ができていた。 ミーティング時の進捗状況の確認については、定期的な物は出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善点を見出し、目標として取り組み、振り返りも行ない、更に改善点を探す取り組みは素晴らしいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的（月1回：月の前半のミーティング時）にサービス評価担当者を中心に、改善計画に基づきケアができているか確認する。特に「出来ていない点、あまり出来ていない点」について、どうしたら出来るようになるか話し合い、取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き衛生面に配慮し、事業所内の整理整頓を行う。 花壇ボランティア様、ご利用者、職員との協力で、花壇やプランターなどの手入れを行い、リプチの森を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 不快な臭いがする、整理整頓が不足している等の声はどこからも上がってこなかった。引き続き衛生面に配慮し、整理整頓に努めたい。 ゴミ拾いやクリーン作戦、落ち葉掃き等地域の方々やご利用者と一緒に行う事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 整理整頓が不足しているとか、不快な臭い、音を感じるような事も無く、開設当初と変わらず、良い環境が保っている。 掲示物などの掲示の仕方に工夫がみられている。 事業所の環境を見る事がなかったので、内外の様子を見てみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き衛生面に配慮し、利用しやすく働きやすい環境作りに取り組む。 地域のクリーン作戦へ参加をする。併せて環境係を中心に落ち葉掃き等の事業所周辺の整備について話し合い取り組む事で、地域との隔たりをなくし、施設に入りやすい環境を維持する。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・摂田屋5丁目の民生委員会議に介護職員も出来る限り参加し、地域の高齢者の困りごとを共有し、事業所として出来る事を行う。 ・地域の行事（夏祭り、文化祭、塞ノ神等）や、公民館での活動にご利用者と共に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員会議に介護職員が出席することはほとんどできなかったが、管理者が出席し、内容は把握出来ていた。 ・地域の行事には積極的に参加することができた。又文化祭等には地域の方々に来ていただいた。 ・公民館で行なわれている体操教室には毎週ご利用者と参加している。地域の方々との良い交流の場になっている。 ・近隣の方々にお会いした際は挨拶をするようにしている。地域の方々からも声を掛けてもらう事が増えたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徘徊高齢者の保護など、支援や相談をしっかりと行っていると感じた。 ・町内住民宅でボヤ騒ぎがあった後の対応で、事業所としてできることからすぐに実行する姿勢、家族への連絡、状況の把握なども素早くやって頂いたことも素晴らしい対応だった。 ・町内の夏祭りではこども神輿の休憩場所も提供いただき、ご利用者様との交流もできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われている行事にご利用者と一緒に積極的に参加をし、地域とのふれあいを大切にする。併せて、事業所でのイベントなどを地域に向け回覧でアナウンスし、互に行き来できる関係を築く。 ・月1回民生委員会議に参加し、地域の困りごとを共有し、事業所として出来る事を行う。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者宅のご近所との挨拶や、回覧板をまわすなどの関わりを持つ。 ・エコマップを作成してご利用者に必要な地域資源を知り、活用していく。 ・個別ケアとして地域を散歩したり、ドライブを行ったりし、ご利用者に楽しんで頂く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコマップを作成し、利用者を取り巻く地域資源を知ることができた。内容を深めて行く上で、どのようにエコマップを活用していくか考えていきたい。 ・散歩やドライブに多く出かけることが出来た。利用者の希望を聞きながら行き先を決め、喜んで頂けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントや包括と共に地域の会議等に参加されており、地域の課題の把握に取り組んでいるなど感じた。 ・地域の体操教室やドライブに連れて行っていただき本人も大変喜んでいいる。 ・ゴミ拾いやクリーン作戦など地域の方々と取り組んでいる。 ・落ち葉はきなど利用者と一緒にやっている姿をよくみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコマップを活用し、ご利用者がこれまで関わって来られた方との関係性を把握し、関係が途切れないように配慮したケアを行う。 ・町内行事や体操教室への参加を支援し、地域との関りが途絶えないようにする。 ・ドライブ等外出の際には、行き先をご利用者と一緒に考え、馴染みのある場所を提案し、ご利用者が懐かしさや楽しみが持てるような計画にする。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り、多くの職員が運営推進会議に出席出来る様に計画を組む。 ・運営推進会議の内容を職員に周知し、委員や他法人の意見を活かしていく。 ・地域の困りごと等の事例検討を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議には介護職員がご利用者と一緒に参加することが出来ていた。 ・会議で困りごと等の事例検討を行なう事で、出席者全員が困りごとを共有でき、問題解決に繋げることも出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議では実状を報告頂き、その対応もご説明頂いている。それぞれのヒヤリハットに対してもどのように改善しようと考えているか報告もあり、再発防止を図っている姿も確認できている。 ・出前の町内会の困りごととも一緒に考えて頂いていて助かっている。 ・会議の際には利用者代表も参加されお話を聞かせて頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きなるべく多くの職員が会議に参加し、直接地域の方々の声を聞き、時に自ら発言する事で、職員一人一人が地域課題を深く意識出来るようにする。 ・事業所の取り組みを分かりやすくお伝えし、「事業所内の常識は、よその非常識」とならないように、委員の方のご意見を活かせるように取り組んでいく。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災活動に参加する。事業所の防災活動にも地域の方々に参加して頂く。 ・水害や雪害など事業所の特性にあった防災訓練を計画し、実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災活動に参加することが出来た。事業所で行なった防災訓練にも地域の方々から参加して頂けている。 ・事業所の特性にあった防災訓練は実施出来なかった。地域の方々と意見交換は出来たので、今後に繋げていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の防災訓練に町内として参加する事ができた。センターの方からも町内の訓練に参加頂けている。 ・有事の際の双方の困りそうな事柄について、担当者と意見交換ができた。 ・災害時特に夜間時における町内とセンターの連携のありかたについての要望や、サポートセンターの「0時避難所」としての活用について等の提案を頂いた。有事の際にはこれらを実行できるように町内会としても考えていきたい。 ・サポートセンター撰田屋は地域に溶け込んでおり、会議の中でも防災の話は度々上がっている。雪害や水害など、地域性を考慮防災にきちんと取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災係が中心となり、地域の防災訓練に参加する事、事業所の防災訓練が地域の方と一緒に進めるような物になるよう計画し、地域の方に参加して頂く事を継続する。また、地域の方からのサポート体制を整えると同時に、センターが災害時の「0時避難所」としての役割を果たせるように整備を行い、互いに防災に関しての連携を深める。
----------------------------	---	--	--	--